

毎週、福島の除染活動状況をお伝えします。

湯川村

「子どもや孫のために」 村民の思いが結集して生活圏の除染を終了。





除染を終えた野球場で10月に開催された「湯川村 スポーツ少年団結成男子35周年・女子30周年記念 ソフトボール大会」。

県内のスポ少チームが集まり、子ども達が元気な プレーを繰り広げた。



「放射線量の測定結果 などの情報をきちんと 提供して、村が安全で あることをアピールし ていきたい」と大塚節 雄村長。

3100㎡の土地を村が譲り受けて設置された仮置場。

湯川村では、今年10月末に県内でいち早く生活圏の除染を終了しました。除染作業は昨年11月からスタート。 除染を行うことで風評被害が増すとの意見もある中、大塚節雄村長は「住民に安心してもらうことが一番大事。 早く取り組むことで風評被害は逆に減る」と、実施を決断したと話します。

まず、中学校の校庭の除染を始め、雪解けを待って今春から2つの小学校の除染に取り組みました。しかし、 仮置場がなかなか決まらず、取り除いた土は各学校の校庭で保管するしかない状況でした。そんな中、住民から 土地を提供したいとの申し出があり、仮置場を確保することができました。

「子ども達のいる場所に除去物を置くのは忍びないということで、土地を提供していただき、土地がある集落 の方々の了解も得て仮置場が決まりました。公共施設や通学路などを含めて生活圏の除染が進んだのは、住民の 皆さんの『子どもや孫のために』という思いがあったからです」と大塚村長。

さらに、住宅については、住民が積極的に雨どい下の土の除去などを行ったことから、計画期間内に除染を終 了できました。